

## 終夜脳波

病棟内の生理検査室で行う検査で、主にてんかんの患者様に行われる検査です。内服薬を中止、減量することで発作を起こしやすくし、脳波を測定しつつその様子を終日ビデオで撮影します。

### <開始前から終了までの流れ・注意点>

#### 1. 開始前

1. 患者様に検査内容、検査目的について説明する。
2. 中止、減量する内服薬を医師へ確認する。内服はすべて看護師管理とし持参薬は回収する。
3. Vラインの要不要を医師へ確認する。発作時自己抜去のリスク高いため、なるべく持続点滴がないようにする。
4. 発作時の対応について医師へ確認し処置オーダーへの入力を依頼する。

#### 2. 開始時

##### 1. 必要物品

- 1) 移動式ナースコール（セッティングしたらナースコールが鳴るかテスト施行する）
- 2) SpO<sub>2</sub>モニター（大きいモニター）
- 3) 酸素ボンベ（残量が十分あるか確認）
- 4) 酸素マスク
- 5) アンビュー
- 6) 吸引セット
- 7) 患者様の歯ブラシ・歯磨き、コップ
- 8) ガーグルベースン
- 9) 患者様自室のオーバーテーブル

##### 2. 部屋準備

- 1) ベッドのコンセントが抜いてあるかを確認する。また、輸液ポンプなどの電気製品は絶対に持ち込まない。（波型にノイズが生じるため）
- 2) 出入り口にアコーディオンカーテンを使用し、プライバシーの保護を図る。

##### 3. 注意点

- 1) 発作時、前駆症状自覚時、トイレ時はナースコールを押すよう説明する。
- 2) 発作時の指示を頭に入れておく。（ダイアップ、セルシンの投与など）
- 3) トイレ時は端子の接続を外し、必ず看護師が付き添い、自室のトイレもしくは、車椅子トイレを使用する。（内服薬を中止、減量しているため必ず付き添う）トイレから戻った際、電極の端子を数字があうように接続し、脳波が取れていることを画面上で確認する。
- 4) 24時間ビデオ撮影をしているため、画面上でビデオが録画されているかを確認する。  
また、発作時、ビデオ画面上に患者が映るよう自分の立ち位置などに注意する。
- 5) 食事の配膳は脳波室にする。また、蝶形骨部に電極を留置する場合は開口時に疼痛あるため、必要であれば、粥食や一口大に食事変更する。